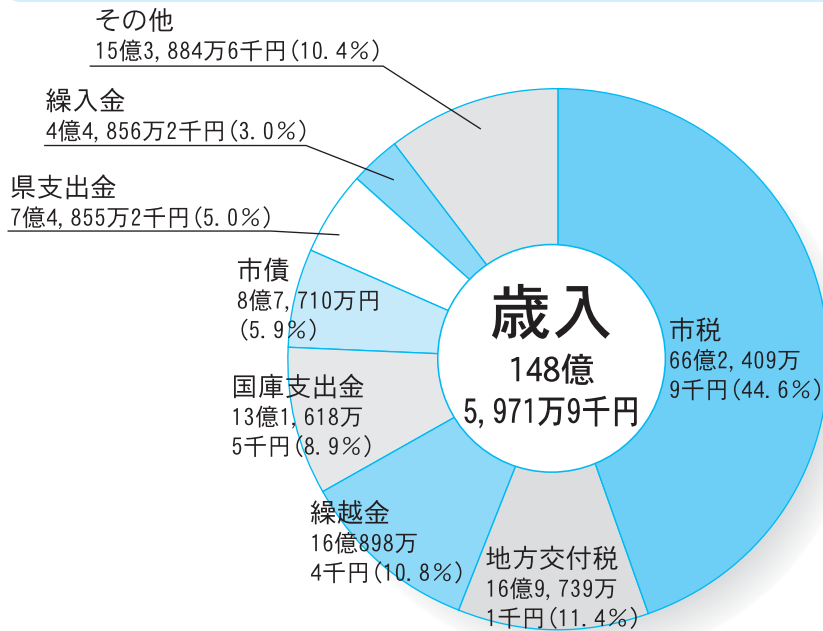


平成21年度決算

平成21年度の決算審議が9月定例市議会で行われました。
ここでは、みなさんに納めていただいた市税や、国・県からの支出金などの収入をどのように使ったのかをお知らせします。

▼一般会計決算

歳入(いただいたお金)の総額 148 億 5,971 万 9 千円
(前年度と比べ 3 億 6,582 万 7 千円増)
歳出(使ったお金)の総額 140 億 1,421 万 3 千円
(前年度と比べ 11 億 2,930 万 5 千円増)
差し引き(形式収支) 8 億 4,550 万 6 千円
決算剰余金(実質収支) 8 億 2,251 万 9 千円



市民1人あたりの市税負担額は？ 121,192円
人口 54,658人(平成22年3月31日現在)

歳入の状況

▼市税収入は全体の44・6%
歳入のなかで最も多いのは、みなさんに納めていただいた市税(市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、都市計画税)で、全体の44・6%を占めています。なかでも市民税は、市税収入の約半分を占める大切な財源となっています。

▼歳入は2・5%の増加
景気低迷による市税収入の落ち込みはありましたが、地方交付税や市債(借入金)の増額、定額給付金などの前年度からの繰越金が多額であったことなどから、歳入全体では前年度より2・5%増加しました。

歳出の状況

▼福祉関連事業に29・1%
歳出は福祉に関する経費の民生費が最も多く、歳出全体の29・1%を占め、障がい者や高齢者の福祉、子育て支援、生活保護などに使いました。

つぎに総務費は18・6%を占め、定額給付金の支給や日本保健医療大学への補

決算書は
市役所情報公開コーナーで
閲覧できます。

問合せ 財政課(一般会計・特別会計)
☎(43)1111 内線252
水道管理課(水道事業会計)
☎(48)0050(直通)

助金などに使いました。
公債費は市債の返済(償還)金であり、12・0%を占めました。
教育費は10・9%を占め、小中学校の耐震補強工事、幼稚園・小中学校教育などに使いました。
土木費は8・7%を占め、圏央道関連の市道整備や道路・公園の維持管理などに使いました。

▼歳出は8・8%の増加
国の景気対策に係る事業や圏央道関連の市道整備事業の影響などにより、歳出全体では前年度より8・8%増加しました。

一般会計の主な事業と決算額

▼民生費(福祉に関する経費)

生活保護費の支給	5億8,756万円
児童手当の支給	3億3,754万円
保育所の運営	1億7,590万円

▼総務費(市の内部管理に関する経費)

定額給付金の支給	8億5,118万円
日本保健医療大学設立に係る補助	1億円
市内循環バスの運行	2,516万円

▼教育費(教育に関する経費)

小中学校の耐震補強工事	2億198万円
アスカル幸手の管理運営	1億871万円
私立幼稚園に通う園児の保護者への援助	5,594万円

▼土木費(道路、橋や公園などに関する経費)

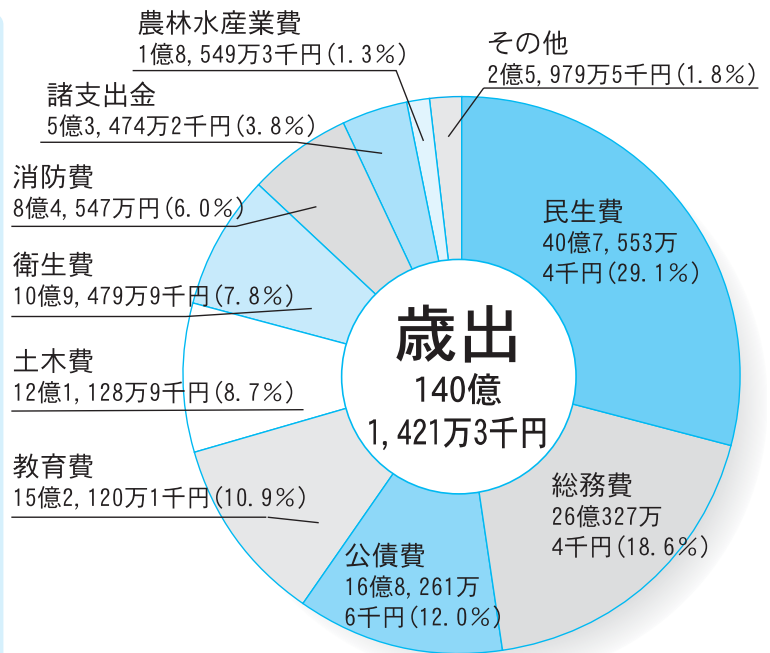
圏央道関連の市道整備	1億2,854万円
公園の維持管理	7,952万円
道路の維持管理	7,060万円

▼衛生費(保健やごみ処理に関する経費)

ごみ処理やリサイクルの推進	5億8,204万円
し尿処理施設の管理運営	1億276万円
各種検診の実施	5,339万円

▼消防費(消防や災害対策に関する経費)

消防団のポンプ車の整備	4,364万円
消防署のポンプ車の整備	2,424万円



市民1人あたりに使ったお金は？ 256,398円

たとえば

民生費に	総務費に	公債費に
74,564円	47,628円	30,784円

決算収支の状況

▼収支は8億2千万円の黒字
歳入と歳出の単純な差し引き(形式収支)は、8億4550万6千円となりました。このうち翌年度に繰り越して実施する事業のための繰越金22億98万7千円を除いた決算剰余金(実質収支)は、8億2251万9千円です。前年度より27.1%増加しました。

▼市債の状況

市債の年度末残高は11億628万3千円で、前年度より6億104万7千3

審議結果について

千円減少しました。公債費負担適正化計画に基づき、借入と返済のバランスをとっていることから残高は年々減少しています。一般会計決算については議会の審議の結果、不認定となりました。決算の内容に影響はありませんが、今後決算の内容について市民のみなさんにより努めてまいります。

特別会計決算

会計名	歳入	歳出
国民健康保険	62億9,430万円	58億8,562万1千円
老人保健	2,987万9千円	2,479万円
後期高齢者医療	3億6,312万5千円	3億5,731万4千円
介護保険	21億6,225万9千円	20億149万4千円
農業集落排水事業	2,626万9千円	2,204万9千円
公共下水道事業	7億3,134万7千円	6億7,682万7千円
水道事業	収入	支出
収益的収支	11億3,357万6千円	10億440万5千円
資本的収支	250万円	3億3,698万8千円

健全化判断比率をお知らせします

～当市は、すべての比率で基準を下回っています～

健全化判断比率は、市の財政の健全度を判断するためのもので、それぞれ判断基準である早期健全化基準([]で表示しています。)などが設けられています。早期健全化基準はいわゆる「イエローカード」で、これを上回ると早期健全化団体と位置づけられます。

実質赤字比率 ー%[13.43%]

一般会計の赤字が一般会計の収入に比べ、どの程度かを表すもの。赤字ではないため、該当無し「ー」となります。

連結実質赤字比率 ー%[18.43%]

市の全部の会計を合算した場合の赤字の程度を表すもの。赤字ではないため、該当無し「ー」となります。

実質公債費比率 12.2%[25%]

市債の返済額などの程度を表すもの。

将来負担比率 71.8%[350%]

今後、返済する市債の残高など、将来支払う負債の程度を表すもの。